

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 登録実用新案公報(U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3148852号
(U3148852)

(45) 発行日 平成21年3月5日(2009.3.5)

(24) 登録日 平成21年2月12日(2009.2.12)

(51) Int.Cl.

F 1

B 4 2 D 3/00 (2006.01)

B 4 2 D 3/00 A

B 4 2 F 7/00 (2006.01)

B 4 2 F 7/00 M

B 4 2 D 3/18 (2006.01)

B 4 2 F 7/00 J

B 4 2 D 15/00 (2006.01)

B 4 2 D 3/18 H

B 4 2 D 15/00 3 O 1 D

評価書の請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 7 頁)

(21) 出願番号 実願2008-8798 (U2008-8798)

(22) 出願日 平成20年12月16日(2008.12.16)

(73) 実用新案権者 591149023

株式会社竹尾

東京都千代田区神田錦町3丁目12番地6

(74) 代理人 100078709

弁理士 浅賀 一樹

(72) 考案者 栗藤 真里

東京都千代田区神田錦町3丁目12番地6

株式会社竹尾内

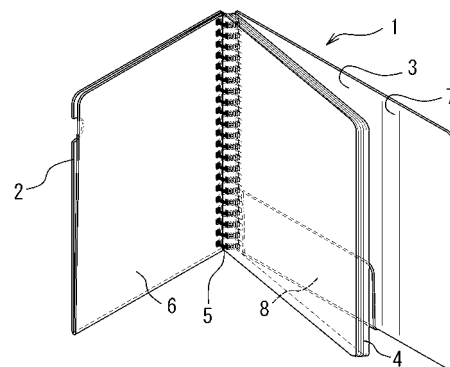
(54) 【考案の名称】 綴じ紙製品

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 収納物の出し入れが容易な大きな開口を設けながら収納物の良好な保持も確保すると共に、収納物の全体を覆って製品利用や外観体裁に与える支障も防ぐことのできる収納部と、収納物の脱落散逸に対するさらなる抑止手段とを備え、しかも製造が簡便廉価な手帳、ノートその他種々の綴じ紙製品を提供する。

【解決手段】 表紙下辺部に連設された表紙2と略同形のホルダー片6を表紙裏面3側に折り上げ重合して綴じ合わせることで綴じ合わせ側の側辺部と下辺部が閉止され上辺部から側辺部に及ぶ大きな開口を有する表紙大で保持力の高い収納部を形成し、一方の表紙の開放側の側辺端部に連設され他方の表紙の表面に廻し渡して重合させ係止できる延長片7により収納部の側辺開口を覆い収納物の脱落散逸を抑止する手段とする。

【選択図】 図1



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】

複数枚の用紙とおもて表紙並びに裏表紙を重合すると共に一方の側辺部で綴じ合わせてなる綴じ紙製品であって、おもて表紙と裏表紙のいずれか一方または双方の表紙と該表紙の下辺端部に連設され該表紙と略同形の面積を有するホルダー片とからなり該ホルダー片を前記表紙の裏面側に折り上げて重合させ該表紙並びに用紙と共に一方の側辺部で綴じ合わせることによって形成された上辺部から開放側の側辺部に及ぶ開口を有してなる収納部と、おもて表紙と裏表紙のいずれか一方の表紙の開放側の側辺端部に連設されてなると共にその開放側の端部を他方の表紙の表面の適宜位置に廻し渡して重合させることのできる長さを有する延長片と、前記延長片の開放側の端部を前記表紙表面の重合位置に係止する係着手段を備えてなることを特徴とする綴じ紙製品。

10

【請求項 2】

前記複数枚の用紙とおもて表紙並びに裏表紙を重合すると共に一方の側片部をリングで綴じ合わせてなることを特徴とする請求項 1 記載の綴じ紙製品。

【請求項 3】

前記収納部を備えない前記表紙の下辺端部に折り返し片が連設されてなることを特徴とする請求項 1 又は 2 のいずれかに記載の綴じ紙製品。

【考案の詳細な説明】

【技術分野】

20

【0001】

本考案は、手帳やノートをはじめ、種々の綴じ紙製品、さらに詳しくは、収納物に対する保持力が高く、その出し入れもし易い収納部と該収納部からの収納物の脱落を効果的に抑止できる手段とを備えた綴じ紙製品に関するものである。

【背景技術】

【0002】

複数枚の用紙とおもて表紙並びに裏表紙を重合すると共に一方の側辺部を綴じ合わせ、綴じ合わせた側辺部を除く三方の辺部を断裁して得られる綴じ紙製品は、書籍、雑誌、冊子などの製本出版物から、カレンダー、アルバム、さらにはノート、手帳などの文具類に至るまで、非常に多数の種類のもものが提供され利用されている。

30

【0003】

これら綴じ紙製品の使用に際して、覚え書きなどのメモ類やレシート、軽便な資料等を表紙と用紙の間や用紙相互間に挟んで利用することは誰もが行っているところで、また、適当な収容具を携帯していない場合に、メモやレシートなどの紙片を手持ちの綴じ紙製品に挟んで保持しておくことも一般的になされており、さらには、綴じ紙製品の提供者が付録類や付属品、宣伝リーフレットなどを綴じ紙製品に挟んで提供することも少なくない。

【0004】

このように、綴じ紙製品の表紙と用紙の間や用紙相互の間に紙片などを挟んで利用し或いは保持することは広く日常的に行われているが、一方の側辺部だけで綴じ合わされた表紙や用紙は簡単に開披するため、挟んでおいた紙片などが脱落して散逸し易く、また、挟んだ紙片などの形状、厚み、凹凸によって用紙への筆記など綴じ紙製品本来の利用が妨げられ、或いは紙片などがはみ出したり膨れ上がったたりして外観体裁を損なう場合も生じていた。

40

【0005】

このため、表紙や用紙の間の任意の位置にただ挟むに止まっていた紙片などに対する保持をより安定させ脱落を抑止する目的で、表紙または用紙の適宜辺部に折り返し片を付設して紙片などを挟んで保持するよう構成した綴じ紙製品、さらには、上部開口を持つ収納部を表紙に貼着形成し、或いは上部開口を持つ収納袋を表紙または用紙相互の間に綴じ込んで収納部とした綴じ紙製品が既に提案され提供されている。

【0006】

50

- 【特許文献1】実開平5-63871号公報
【特許文献2】実開平6-16072号公報
【特許文献3】実開平7-5769号公報
【特許文献4】登録実用新案第3071093号公報
【特許文献5】特開平11-348455号公報

【考案の開示】

【考案が解決しようとする課題】

【0007】

このように、紙片など収納物に対する保持と脱落の抑止を企図する収納部を設けた綴じ紙製品は従来から提案され提供されているが、その一つである表紙や用紙の適宜辺部に折り返し片を付設した綴じ紙製品を見るに、紙片など収納物を特定位置に確実に且つ容易に収納させる効果は奏するものの、表紙や用紙の開披によって折り返し片も簡単に開披してしまう点で表紙や用紙の任意位置に挟んだ場合と変わらず、収納物を安定的に保持し脱落散逸を抑止する特段の効果は認められない上に、収納物によって簡単に膨出変形するため、収納物の形状、厚み、凹凸によって生じることのある綴じ紙製品本来の利用や外観体裁を損なう恐れに対しては全く無力である。

10

【0008】

他方、上部開口を持つ収納部を表紙に貼着形成し、或いは上部開口を持つ収納袋を表紙または用紙相互の間に綴じ込んで収納部とした綴じ紙製品にあっては、収納物に対する保持の安定が向上していることは認められるが、収納物の脱落散逸を恐れて上部開口を設けるに止まっているため、収納物の容易な出し入れが妨げられており、収納物の出し入れをより容易にする上部開口を越えた大きな開口を持ち、しかも収納物の脱落散逸を抑止するだけの保持力を示す収納部を備えた綴じ紙製品は未だ提案も提供もされていない。

20

【0009】

また、表紙に収納部を貼着形成する綴じ紙製品では、製造段階での部品数と工数が増してしまい、製造の手間とコストを押し上げる点も大きな問題となっている。

【0010】

さらに、表紙や用紙の自由な開披と利用を確保する目的で、表紙に貼着形成される収納部の素材、形状、位置、面積に提案者自らが各種制約を加えているが、却って自由で容易な収納部の利用を妨げると共に、収納部の膨出変形など収納物の形状、厚み、凹凸が与える支障や悪影響を阻止し難いものにしてしまい、提案者の意に反して綴じ紙製品本来の利用や外観体裁を損なう結果を招いている。

30

【0011】

この問題は、上部開口を持つ収納袋を表紙または用紙相互の間に綴じ込む従来例において特に顕著で、収納袋で収納物の全体を覆って保持しているにも拘わらず、収納袋が収納物によって簡単に膨出変形してしまうため、収納物の形状、厚み、凹凸が製品利用や外観体裁に与える支障や悪影響に対して完全に無力となっている。

【0012】

本考案は、従来例が不可避免的に抱え続けて来た上記の諸問題を解決し、上部開口を越える大きな開口によって収納物の容易で簡便な出し入れを可能にしながら収納物に対する良好な保持も確保する上に、収納物の全体を常に完全に覆って綴じ紙製品本来の利用や外観体裁に対する支障を防ぎ、且つ製造の手間やコストも増大させるところのない収納部を備えると共に、収納物の脱落に対するさらに効果的な抑止手段をも備えた綴じ紙製品の提供を課題とし目的とする。

40

【課題を解決するための手段】

【0013】

請求項1の考案は、複数枚の用紙とおもて表紙並びに裏表紙を重合すると共に一方の側辺部で綴じ合わせてなる綴じ紙製品であって、おもて表紙と裏表紙のいずれか一方または双方の表紙と該表紙の下辺端部に連設され該表紙と略同形の面積を有するホルダー片とからなり該ホルダー片を前記表紙の裏面側に折り上げて重合させ該表紙並びに用紙と共に一

50

方の側辺部で綴じ合わせることによって形成された上辺部から開放側の側辺部に及ぶ開口を有してなる収納部と、おもて表紙と裏表紙のいずれか一方の表紙の開放側の側辺端部に連設されてなると共にその開放側の端部を他方の表紙の表面適宜位置に廻し渡して重合させることのできる長さを有する延長片と、前記延長片の開放側の端部を前記表紙表面の重合位置に係止する係着手段を備えてなること、を特徴とする綴じ紙製品である。

【0014】

請求項2の考案は、前記複数枚の用紙とおもて表紙並びに裏表紙を重合すると共に一方の側片部をリングで綴じ合わせてなること、を特徴とする請求項1に記載の綴じ紙製品である。

【0015】

請求項3の考案は、前記収納部を備えない前記表紙の下辺端部に折り返し片が連設されてなること、を特徴とする請求項1または請求項2のいずれかに記載の綴じ紙製品である。

【考案の効果】

【0016】

以上のように、本考案によれば、表紙に連設され表紙と略同形の面積を有するホルダー片によって下辺部と綴じ合わせ側の側辺部が閉止され上辺部から開放側の側辺部に亘る大きな開口を備えた大判で保持力の高い収納部が形成され、さらに、表紙に連設された延長片が収納部の開口の一部を覆って収納物の脱落散逸をより効果的に抑止するから、課題の全てを解決し目的を達成する綴じ紙製品を提供することができる。

【考案を実施するための最良の形態】

【0017】

以下、本考案を実施するための最良の形態について、図面を参照して説明する。

【0018】

図1～4は、本考案に係る綴じ紙製品の一実施形態であるやや大型の手帳（又はノート）を例として示すもので、おもて表紙2と用紙4と裏表紙3を重合し、一方の側辺部をリング5で綴じ合わせ他の3辺部を断裁することによって手帳1を構成するものであるが、おもて表紙2の下辺端部にはおもて表紙2と略同形のホルダー片6が一体に連設されており、このホルダー片6をおもて表紙2の裏面側に折り上げて重合させ、おもて表紙2と用紙4並びに裏表紙3と共に一方の側辺部をリング5で綴じ合わせることで、綴じ合わされた側の側辺部と下辺部で閉止する一方、上辺部から開放側の側辺部に及ぶ大きな開口を持ち、おもて表紙2の全面に亘る面積を持つ大判の収納部が形成されている。

【0019】

他方、裏表紙3の開放側の側辺端部には延長片7が一体に連設されており、この延長片7には開放側の端部をおもて表紙2の表面に廻し渡して適宜位置に重合させるに足る長さが与えられ、図示実施形態における延長片7は連設された裏表紙3の側辺の長さに等しい幅を有している。

【0020】

また、おもて表紙2の表面と延長片7の開放側の端部表面には、おもて表紙2の表面に廻し渡した延長片7をおもて表紙2との重合位置で係止するための一对のひも付き丸タック9が設けられている。

【0021】

なお、本実施形態では、裏表紙3にホルダー片を用いた収納部を形成していないが、これは説明の便のためでもあり、従来から提案され提供されているところに習って折り返し片8を裏表紙3の下辺端部に連設し、裏表紙3の裏面側に折り上げた折り返し片8と裏表紙3の裏面の間に紙片などを挟んで保持できるよう構成した。

【0022】

本実施形態に係る綴じ紙製品は以上の構成を有してなるものであり、おもて表紙2とホルダー片6で形成される収納部が上辺部から開放側の側辺部に及ぶ大きな開口を持つ結果、上辺部だけが開口した従来例の収納部に較べて、収納物の出し入れがはるかにし易くな

10

20

30

40

50

っている。

【0023】

また、略同形のおもて表紙2とホルダー片6によっておもて表紙2と等しい面積を有する大判の収納部が形成される上に、下辺部と綴じ合わせ側の側辺部で閉止されたおもて表紙2とホルダー片6は収納物の出し入れに必要とされる以上に開披することがないから、上辺部から開放側の側辺部に及ぶ大きな開口を設けているにも拘わらず、収納部に挟んだ収納物に対して高い保持力を示し、収納物が脱落散逸することを収納部それ自体で抑止することができる。

【0024】

併せて、本実施形態に係る上記の収納部にあっては、おもて表紙2の全面に重合したホルダー片6が収納物の全体を常に完全に覆って用紙4から遮ることになるため、収納物の形状、厚み、凹凸によって筆記しにくくなるなど綴じ紙製品本来の使用が妨げられたり、或いはおもて表紙2やホルダー片6が膨出変形するなどして外観体裁を損なう恐れも大きく低減している。

【0025】

さらに、本実施形態に係る手帳(又はノート)1においては、裏表紙3の開放側の側辺端部に連設された延長片7の開放側の端部をおもて表紙2の表面に廻し渡して重合させ、おもて表紙2の表面と延長片7の開放側の端部表面に設けた一对のひも付き丸タック9によって重合位置に係止するよう構成されており、それ自体で高い保持力を示す収納部側辺の開口をおもて表紙2の表面に係止された延長片7が覆うように塞ぐから、収納物の脱落散逸をより効果的に抑止することができる。

【0026】

なお、この延長片7の存在によって、裏表紙3の下辺端部に連設された折り返し片8と裏表紙3の間に挟んで保持される紙片なども、折り返し片8だけでは免れることが難しかった脱落散逸の恐れを大きく抑止されていることも指摘しておきたい。

【0027】

このように、本実施形態に係る手帳(又はノート)によれば、上辺部から側辺部に及ぶ大きな開口によって収納物の良好な出し入れを実現しながら、収納物に対する良好な保持も確保する上に、収納物の全体を常に完全に覆って綴じ紙製品本来の利用や外観体裁を損ねる恐れを大きく低減させ、しかも製造の手間やコストを増大させるところのない収納部を備えると共に、収納物の脱落散逸に対するさらに効果的な抑止手段をも備えた綴じ紙製品を得ることができる。

【0028】

なお、本実施形態の手帳1においては、おもて表紙2の下辺端部だけにホルダー片6を連設して収納部を形成するよう構成したが、これは説明の便を考慮したものであり、おもて表紙と裏表紙のいずれの一方にホルダー片を連設して収納部を形成することも、双方の表紙にホルダー片を連設して収納部を形成することも、任意に選択できるところであって、例えばおもて表紙と裏表紙の双方に収納部を形成した場合にも、収納部の機能並びに効果や延長片による収納物の脱落抑止が妨げられ或いは減じるところはない。

【0029】

同様に、本実施形態において、延長片7を本考案に係る収納部のない裏表紙3の開放された側辺端部に連設したが、一方の表紙の開放側辺端部から他方の表紙の表面適宜位置に廻し渡して重合させ係止する限り、収納部の側辺開口を覆って塞ぎ収納物の脱落散逸を抑止することができるから、収納部の有無に関わりなくおもて表紙または裏表紙のいずれかを選択して連設することができる。

【0030】

さらに、本実施形態では、裏表紙3に連設された延長片7に裏表紙3の側辺の長さと同じ幅を与え、おもて表紙2の表面に係止された延長片7が収納部側辺の開口をほぼ完全に覆って塞ぐよう構成したが、本考案の実施の際に利用者が微細な収納物を収納部に挟んで保持する筈もなく、収納部の側辺開口の一部が延長片によって塞がれるだけでも収納物

10

20

30

40

50

の脱落を抑止する十分な効果を確保できるから、延長片の幅にも特段の限定はない。

【0031】

なお、本実施形態では、重合させたおもて表紙2並びに裏表紙3と用紙4の一方の側辺部をリング5によって綴じ合わせて製造段階における糊付けや糸縫りなどの工程を完全に排除したが、綴じ合わせ方法には如何なる限定もなく、綴じ紙製品の種類や用途による製本仕様に従い或いは実施者の任意に選択して構わない。

【0032】

例えば、リングによる綴じ合わせを選ばなかったために糊付けなどの工程とコストが必要になるとしても、それは通常製本仕様において当然に求められる工程とコストであって、本考案固有の収納部や延長片による手間やコストの増大を意味せず、かかる場合にあっては表紙部分に収納部を形成する従来例で必要とされた手間やコストは明らかに低減されているからである。

10

【0033】

最後に付言するに、本件実施形態において、延長片7の開放端部をおもて表紙2の表面重合位置に係止するために用いたひも付き丸タック9は、係着手段の一例にすぎず、スナップや起毛性係着片など公知のあらゆる係着手段から任意に選択することができる。

【図面の簡単な説明】

【0034】

【図1】本考案に係る綴じ紙製品の一例を示す斜視図である。

【図2】本考案に係る綴じ紙製品の表紙の構成を示す斜視図である。

20

【図3】本考案に係る綴じ紙製品の実施の状況を示す斜視図である。

【図4】本考案に係る綴じ紙製品の他の実施の状況を示す斜視図である。

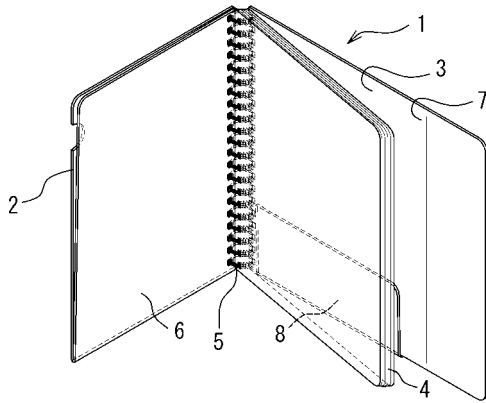
【符号の説明】

【0035】

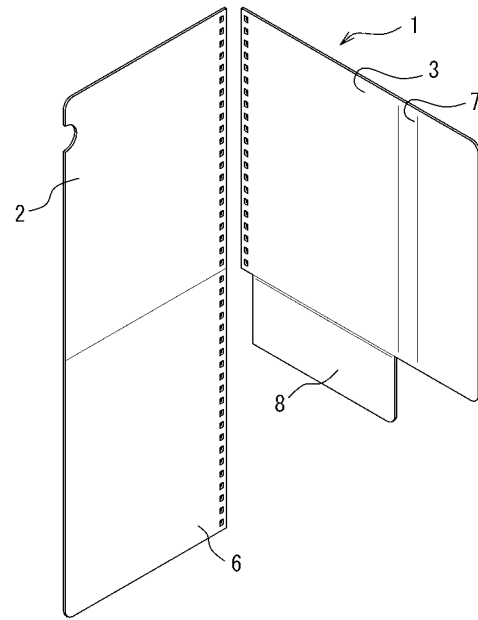
- 1 手帳（又はノート）
- 2 おもて表紙
- 3 裏表紙
- 4 用紙
- 5 リング
- 6 ホルダー片
- 7 延長片
- 8 折り返し片
- 9 ひも付き丸タック

30

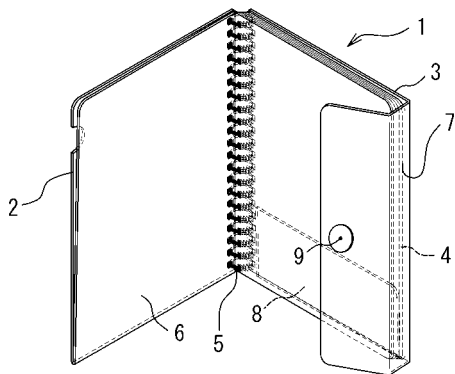
【図 1】



【図 2】



【図 3】



【図 4】

